



- ①カラフルな「マグネット」天板で空間演出も工夫
- ②安全性と使いやすさを両立した機構で製造
- ③汚れが目立たない「ストレージユニット『ブラック』」
- ④医薬品棚など多様な用途に対応
- ⑤鈴鹿工場の製造風景

金属加工

プラスチック加工

機械

部品部材

生活・環境

ダイシン工業 株式会社

- 短納期
- 小ロットOK
- 量産OK
- 試作OK
- オカチ技術
- 連携力



代表取締役社長
つるみ てつお
鶴見 哲男 さん

多様化する市場のニーズを満足させる家具づくりを追求

昭和31年の創業以来60年余りにわたり、引き出しの可動域を大きくする独自のサスペンションレール技術を搭載したファイリングキャビネットを設計・製造しています。一貫して高品質の収納家具に特化した研究開発に努め、現在はオフィス・工場・医療など広い分野に向けて多様な製品を提供しています。多様化・複雑化する市場のニーズに対し、品質・環境・サービスで一層の創意工夫が求められる中、全社員の英知と総力を結集し、お客様の満足を得られる“ものづくり”を追求し、さらに高い信頼をいただける企業を目指して精進していきます。

- 主な事業内容
金属製家具の製造・販売
- 主な取引先（納入先）
非公表

住 所 / 〒570-0011
大阪府守口市金田町3-60-15
TEL / 06-6901-5551
FAX / 06-6901-5552
創 業 / 昭和31年4月
設 立 / 昭和34年8月
資本金 / 9,800万円
従業員 / 100名

<http://www.daishinkogyo.co.jp/>

独自の機構設計の家具で オフィスの利便性を支える

事業内容と沿革

独自の設計力を生かしたオフィス用家具を展開

「ダイシン工業」は創業60年を超えるオフィス家具メーカー。独自の機構設計を持つ家具を重点的に製造し続けることで多くの企業の事務作業効率化を支えてきた。昭和31年にスチール家具製造のため、大阪市旭区で「大進鋼鉄工業所」として創業。昭和34年に株式会社化し、社名を現在の「ダイシン工業」とした。翌年の昭和35年に大阪府守口市に本社工場を移転。昭和38年には主力の事務用書類入れ「ファイリングキャビネット」でJISマーク表示認証を取得し、家具製造を軌道に

乗せていった。

現在の主力工場である鈴鹿工場（三重県亀山市）が完成したのが平成元年。鈴鹿配送センターも合わせて設置し、スムーズな出荷を行えるようにした。平成11年にはISO9001認証を取得し、管理体制も充実。製造の自動化や設備の大型化に対応するため、平成19年以降は製造を鈴鹿工場に一本化して時代のニーズに応じたオフィス家具を供給し続けている。

強み

収納しやすさを追求した家具で長年の信頼を獲得

同社のオフィス家具は、ユーザーの視点に立った細やかな配慮に基づく独自機構が特徴。創業当初の主力製品である書類入れ「ファイリングキャビネット」では、引き出しの可動域を増やす「サスペンションレール」を搭載し、収納しやすくした。鶴見哲男社長は「創業当時から変わらないものづくりへのこだわりが、弊社の信頼と信用を支えている」と胸を張る。

現在はオフィス用収納家具のほか、工具キャビネットやワゴンなどの工場用家具、医療分野向けの医薬品収納やカルテ収納庫といった医療用収納家具など、さまざまな用途に応じた設計を外観デザインも含めて行う。例えば、平成24年に発売した壁面収納家具「バリアス・シスト」シリーズでは鍵穴やヒンジなどの部品の突起をなくして引っかかりを防ぎ、引き出し2段以上を同時に引き出せないセーフティーロックや開きやすい扉などを採用。安全性と利便性を両立した設計に力を入れている。

取り組み

技術力を継承しながら環境負荷低減にも取り組む

「機構部品をオリジナルで設計してきた実績を途絶えることなく継承してきた」と鶴見社長は力説する。技術伝承に加えて最新技術も導入し、現在は3次元CADによる機構解析なども活用している。これにより、サスペンションレールに加えてヒンジなど可動する部品の設計も可能になった。

鶴見社長がもう一つ力を入れているのが「人と環境に配慮した企業活動」。生産工程での環境負荷低減のため、鈴鹿工場には随時新たな設備を導入している。これまで最新型のボイラーやコンプレッサーの導入を完了した。さらに屋根に遮熱塗装を行い、照明もLED（発光ダイオード）に変更、平成25年には太陽光発電設備も導入して節電につなげている。平成26年には粉体塗装設備を導入。塗料の使用効率を大幅に高めて排水を大幅に削減するなど、より環境負荷の少ない工場へ改善を続けている。

今後の展開

家庭用家具など新市場の開拓で成長を図る

創業以来の主力市場であるオフィス家具で、ダイシン工業は常に革新的な製品を生み出してきた。一方、新規市場開拓にも熱心に取り組む。これまで耐荷重性を高めた工場用家具や平成24年に参入した医療用家具など、オフィス以外の使用場面にも対応してきた。さらに鶴見社長は「家庭用家具を充実させ、事業開発を行いたい」と意気込む。平成28年にステンレス製の家庭用食器棚「サスリナ」を発売。オフィス家具で培った収納ノウハウを生かし、耐久性が高く大容量で、開け閉めがしやすく、かつ安全性の高い機構を搭載した。

オフィス家具もさらに強化する。平成29年の新製品として、汚れが目立ちにくい加工をした黒い外観の「ストレージユニット『ブラック』」と、コミュニケーションが活発な創造的なオフィスを演出するためのカラフルな天板やクッション天板による「ユーティリティーユニット『マグネット』」を発売。空間の演出にも一役買う。